

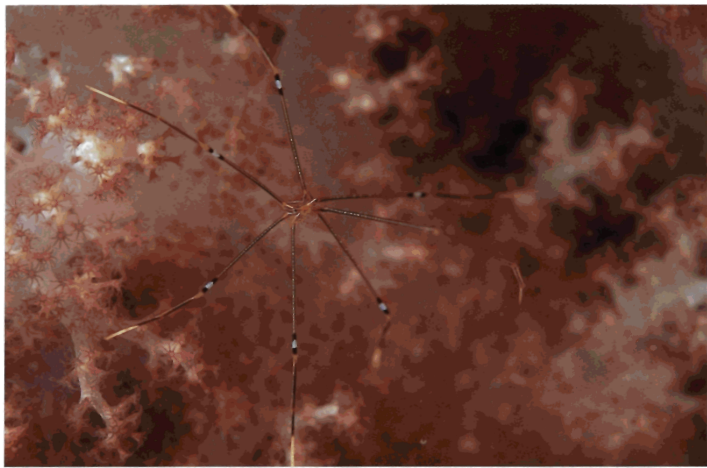


海の甲殻類

峯水亮 著 武田正倫・奥野淳兒 監修



文一総合出版



静岡県 (大瀬崎) / 水深: 20m / 甲長: 1cm

撮影: 峯水 亮

サンゴ礁や岩礁の礁斜面に生息するヤギ類やウミカラマツ類、ウミトサカ類などの枝上に見られる。1対のはさみ脚と3対の歩脚を持ち、第5胸脚は目立たない。分類的にはエビ類よりコシオリエビ類に近い。はさみ脚や歩脚は著

しく長い。歩脚の長節に淡黄色の斑点が並び、腕節や前節では縦帯になる。長節の末端に黒で囲まれた白色の斑紋がある。歩脚の指節は淡黄色で縁取られる。本州南部でふつうに見られる。

ワラエビ科 (Chirostylidae)
ムギワラエビ属 (Chirostylus)

オルトマンワラエビ

Chirostylus ortmanni

- 分 布
房総半島～鹿児島
- 生息環境
岩礁、礁斜面、(トサカ類、イソバナ類、ウミカラマツ類)
- 生息水深
15～70m



沖縄県 (西表島) / 水深: 20m / 甲長: 0.5cm

撮影(2点): 峯水 亮



はさみ脚が2本とも欠損している / 甲長: 1cm

サンゴ礁の礁原や礁斜面、礁洞などに生息するウミヒドラ類、ウミカラマツ類、イソバナ類、ヤギ類などの枝上に見られる。日中も見られるが、陰になるようなところに多く、夜間のほうがより数多く見られる。オルトマンワラエビに似ているが、歩脚の長節に黒で囲まれた白色の斑紋はなく、長節から前節にかけて大小の淡黄色の斑点が並ぶ点が異なるため、本書では別種として扱った。

ワラエビ科 (Chirostylidae)
ムギワラエビ属 (Chirostylus)

ムギワラエビ属の一種

Chirostylus sp.

- 分 布
奄美大島以南
- 生息環境
サンゴ礁、礁斜面、礁洞、(イソバナ・ヤギ・ウミカラマツ類)
- 生息水深
15m 以深

フラエビ科 (Chirostylidae)
クモエビ属 (Uroptychus)

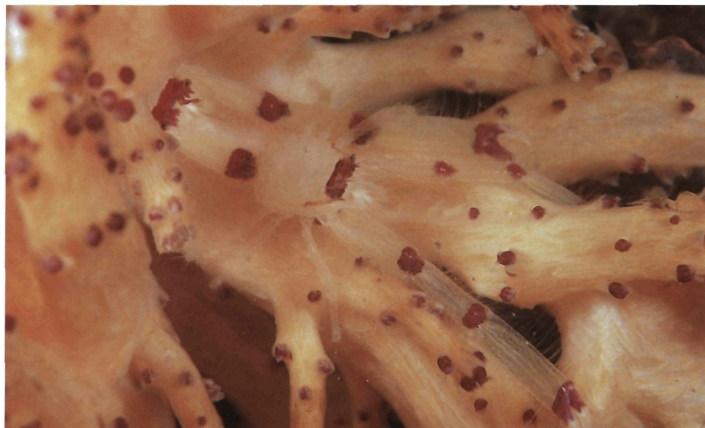
クダヤギクモエビ

Uroptychus kudayagi

● 分布
相模湾～九州

● 生息環境
岩礁、礁斜面、(タイマツトサカ科)

● 生息水深
15～90m



静岡県 (大瀬崎) / 水深: 22m / 甲長: 0.7cm

岩礁の礁斜面に生息し、主にニクイロクダヤギに共生するが、まれにアカバナクダヤギにも見られ、宿主の幹の間に、たいてい複数で隠れる。宿主にみごとに擬態しており、見分けづらい。体は乳白色で、眼の周囲や脚の各関節部分に、宿主のポリブに似た鮮やかな赤色の斑紋がある。はさみ脚は著しく長く、雄は甲長の約5倍、雌では約4倍になる。



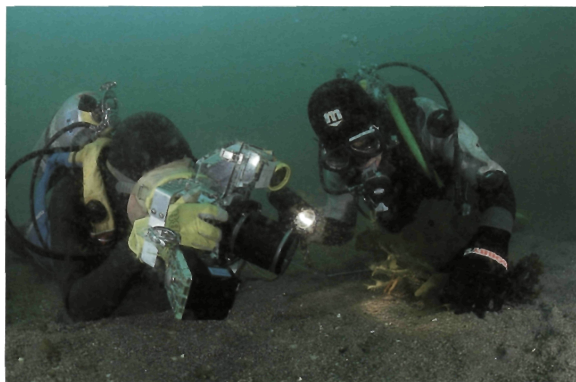
宿主の一つニクイロクダヤギ 撮影(2点): 峯水 亮

Column

観察時の注意：宿主を傷めないために

甲 殻類のなかには、刺胞動物に共生する種類も多い。こうした種類を観察

する際には、宿主となる生物を傷めないように注意したい。たとえば、手で直接ポリ



水中ライトを使って観察する

ブを触ったり、無理矢理枝を広げたりすることは、ポリブをつぶしてしまうことになるので、宿主の採餌に影響をおよぼす。枝間にいて宿主に直接接触しないと観察しづらい甲殻類は、水中ライトで照らしたり、市販の指示棒などを利用して、注意深く細部を見ていくとよい。



静岡県（大瀬崎）／水深：22m／甲長：0.7cm

撮影：梅窪 広志

砂底や砂泥底、岩礁に生息し、転石のすき間や岩と砂地の間、岩肌の海藻の根元付近など、さまざまな環境で見られる。体色の変異が著しいが、主に緑褐色や茶褐色の地で、背中線

上に白色の縦帯があるものが多い。額はほぼ三角形、側縁に3歯があり、甲面には顕著な横しわがある。

コシオリエビ科 (Galatheidae)
コシオリエビ属 (Galathea)

トウヨウコシオリエビ

Galathea orientalis

- 分布
函館～九州、小笠原諸島
香港、アラビア海、紅海
- 生息環境
岩礁、砂底、砂泥底、転石帯
- 生息水深
2～200m



沖縄県（久米島）／水深：10m／甲長：1cm

撮影：峯水 亮

サンゴ礁の礁原や礁縁に生息するユビエダハマサンゴなどの枝状のサンゴにすみ、常に、長いはさみ脚を前方に伸ばしている。体は半透明で、甲面には黒褐色の斑紋が散在し、眼柄の

つけ根を含め3対ある。歩脚やはさみ脚には、明赤色と黒褐色の横縞斑紋がある。甲の側縁のとげは5～6歯。

コシオリエビ科 (Galatheidae)
コシオリエビ属 (Galathea)

フタホシコシオリエビ

Galathea bimaculata

- 分布
奄美大島以南
東南アジア
- 生息環境
サンゴ礁、礁原、(枝状サンゴ)
- 生息水深
1～15m



アナモリチュウコシオリエビ *Munida olivariae* / 沖縄県 (西表島) / 水深: 15m / 甲長: 0.8cm

撮影: 横山 高雄



静岡県（大瀬崎）／水深：5m／甲長：1.2cm

撮影：御宿 昭彦



背側

撮影：峯水 亮

岩礁の礁原や礁斜面の転石帯や岩のすき間などに隠れすむ。体は明赤色で、はさみ脚や歩脚は長い毛でおおわれる。左右同大の長いのはさみ脚を持つ。正面から見ると、はさみ脚の指部のつけ根に白色の斑紋が、甲の裏側には白色の帯が見える。甲面は前半部に13本ほどのとげが横に並び、多数の横しわがあり、縁は白色で縁取られる。

コシオリエビ科 (Galatheidae)
チュウコシオリエビ属 (Munida)

ホームラチュウ コシオリエビ

Raymunida elegantissima

- 分 布
函館以南
東南アジア、インド洋、
紅海
- 生息環境
岩礁、礁原、礁斜面、砂
泥底、転石帯
- 生息水深
15～500m



体色の一例



体色の一例

コシオリエビ科 (Galatheidae)
コマチコシオリエビ属 (Allogalathea)

コマチコシオリエビ

Allogalathea elegans

- 分 布
相模湾以南
東南アジア、オーストラ
リア、フィジー、インド
洋、紅海
- 生息環境
サンゴ礁、岩礁、(ウミ
シダ類)
- 生息水深
2～120m



静岡県（大瀬崎）／水深：16m／甲長：0.7cm

撮影(3点)：峯水 亮

サンゴ礁や岩礁の浅海に生息する。ウミシダ類に共生し、宿主の巻枝付近に、たいてい雌雄で見られる。体色は個体による変異が多いが、宿主の配色に似たツートーンの縦縞模様が一般的。はさみ脚は扁平で細長く、甲長のおよそ1.5倍以上にもなり、常に前方に伸ばしている。額角は幅広く、側縁に5～9歯ある。甲面に多数の横筋がある。

コシオリエビ科 (Galatheidae)
ヒヅメコシオリエビ属 (*Lauriea*)

ヒヅメコシオリエビ

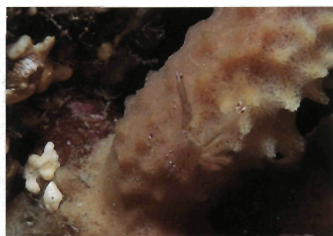
Lauriea gardineri

- 分布
伊豆半島以南
パラオ, オーストラリア
北部, インド洋, 紅海
- 生息環境
サンゴ礁, 岩礁, 礁斜面,
(カイメン類)
- 生息水深
15m 以深



雄 / 静岡県 (大瀬崎) / 水深: 14m / 甲長: 0.6cm
撮影: 峯水 亮

岩礁の礁斜面の岩肌に生えるザラカイメンやワタトリカイメン、ミズガメカイメンなどに共生し、宿主が枝別れする基部や外側のひだなどに、たいてい雌雄で隠れすむ。体色は、半透明の淡黄色。長毛でおおわれる。雌では白と赤の隣接する斑点がまばらに散在するが、雄の斑点は不鮮明。眼に赤褐色の斑点が散在する。



雌
撮影: 鈴木 敬宇

コシオリエビ科 (Galatheidae)
ヒヅメコシオリエビ属 (*Lauriea*)

ピンクスクワット ロブスター

Lauriea siagiani

- 分布
フィリピン, インドネシア
- 生息環境
サンゴ礁, 礁斜面, (カイメン類)
- 生息水深
15m 以深



インドネシア (バリ島) / 水深: 20m / 甲長: 1cm

撮影: 峯水 亮

サンゴ礁や岩礁に生息するイワカイメン科の大型のつぼ状カイメン (*Xestospongia testudinaria*) に共生し、宿主の側面にある縦溝の間の方付近に隠れすむ。体色は鮮やかなピンク色で、

明紫色の細線が歩脚や甲の周縁にある。体全体にブラシ状の毛が密に生える。日本からの記録はまだなく、和名もついていない。